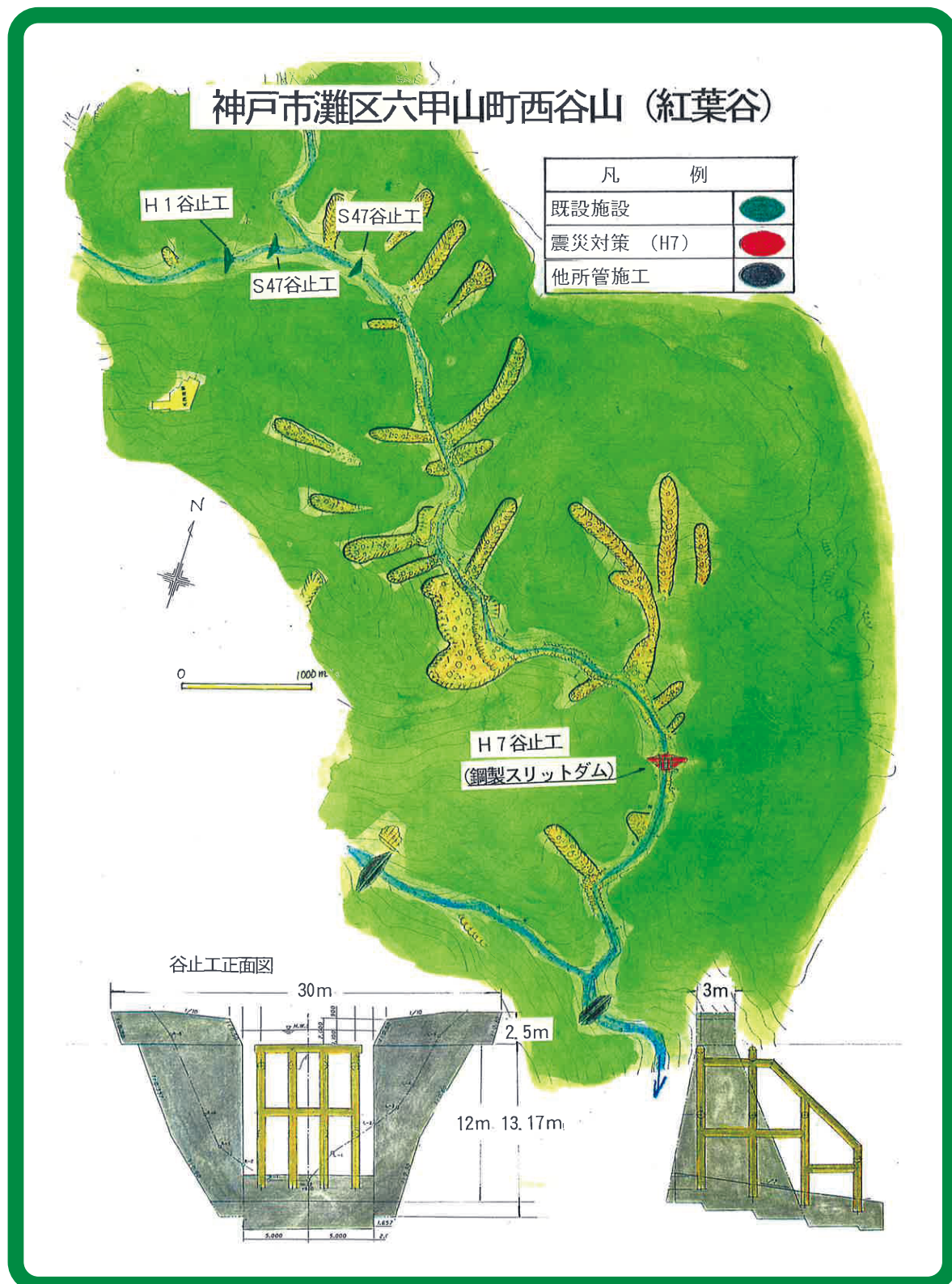


平成7年（1995年）阪神・淡路大震災

阪神・淡路大震災と六甲山 神戸市灘区六甲山町西谷山（紅葉谷） ③

- **被害状況** 谷部の山腹に大規模な崩壊が発生し、多量の崩壊土石が急な山腹斜面、溪床に堆積して、洪水時には土石流が発生しやすい状況となった。
- **地形・地質** 山腹は急峻でV字谷を形成し、谷の両岸部は風化した花崗岩が露岩している。五助橋断層、大月断層の上流域で、花商岩は亀裂が発達していた。
- **事業目的** 土石流出の調整機能に優れた谷止工（鋼製スリット）を施工し、溪流と山腹に堆積している多量の不安定土石の流出の抑止、土石流災害の未然防止を図る。



上流部の山腹崩壊状況



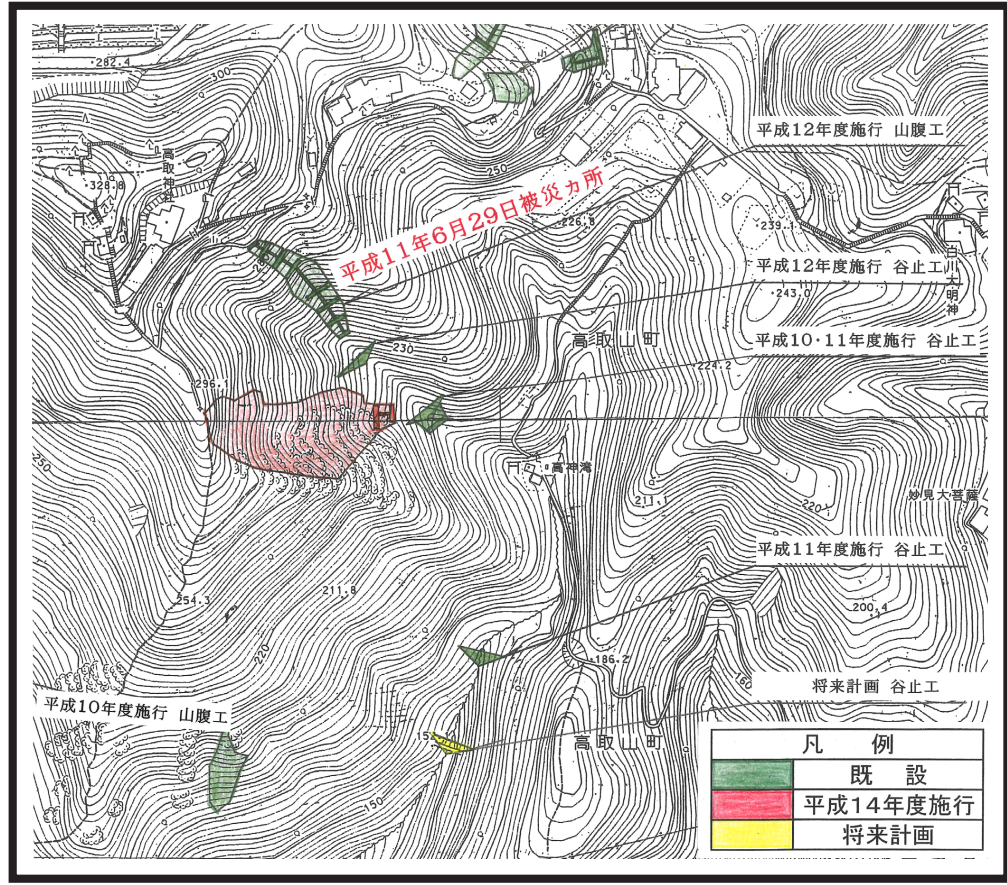
工事施工中 平成8年（1996年）3月



崩壊土石の堆積状況

阪神・淡路大震災と六甲山 神戸市長田区高取山町地区の治山事業 ④

- **被害状況** 兵庫県南部地震により、過去に発生していた山腹崩壊地が拡大崩壊し、尾根部より岩塊が谷部に崩落し、不安定な状態となっていた。平成11年6月29日の梅雨前線による降雨（252 mm/日、67 mm/時）により、溪流の上流東斜面及び山頂東部に新たな崩壊が発生した。溪流上流東斜面において、幅20m長さ100mの崩壊が発生し、約600m³の土石が流れ出たが、平成10年度施行の谷止工が土石を止めた。山頂東部においては、幅10m長さ30mの崩壊が3箇所発生し、茶店の住居部分を倒壊させた。このため、崩壊部分の調査・測量を行い現在順次復旧工事をすすめている。
- **地形・地質** 標高150～300mに位置し、地質は六甲花崗岩であり、高取山断層及び須磨断層に挟まれた地区であり、節理が発達したうえに風化がすすんでいる。
- **事業目的** 谷筋においては不安定土砂の移動及び流出を抑止するために谷止工を施行し、溪床の安定及び山脚の固定を図る。山腹面においては、不安定な岩塊及び土砂を除去し、早期に森林へ復旧すべく土留工・水路工・緑化工等を施行する。



全景



平成10年度施工した治山ダムで土石を止めた。



被災前



被災直後



平成12年度施工状況（山腹工）



復旧後 平成12年（2000年）4月



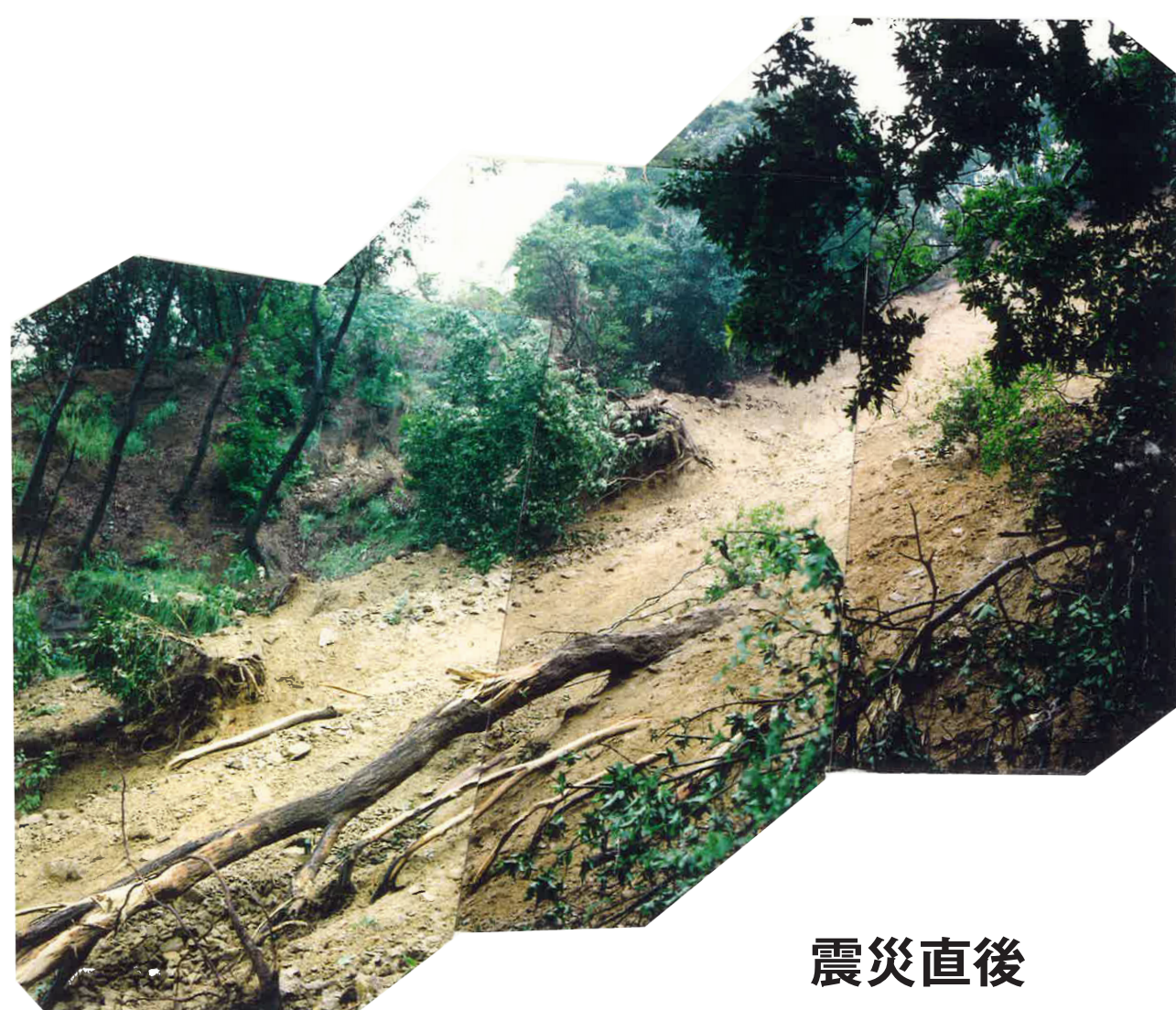
降雨水により過去に堆積していた土砂を押し流した。



過去に施工していた治山ダムにより土砂を止め被害を最小限に食い止めた。

阪神・淡路大震災と六甲山 神戸市須磨区妙法寺字はげ山 ⑤

- **被害状況** 山腹斜面に亀裂が生じ、斜面が崩壊した。なお、当地区では昭和62年度より治山事業を実施していた。地震により破壊・損傷した施設は認められず、住宅地への落石・土砂流出等を防止した。
- **地形・地質** 崩壊面積0.66ha（標高130～200m・平均傾斜角32度・最大傾斜角68度）地質は、布引花崗閃緑岩類であり、施工地付近には高取山断層があり、節理が発達したうえに、風化が進んでいた。
- **事業目的** 山腹の不安定土石の移動を図る施設、斜面からの落石を抑止する施設及び山腹斜面の安定を図る施設の設置と緑化により、直下住宅地の保全ならびに森林の機能回復を図る。



震災直後



復旧後 平成8年（1996年）4月

復旧状況 平成8年（1996年）4月